「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

１　取組事例名
「市民みんなで創る音楽祭　～市民プロデュースで集客数が 4 倍に！～」

２　取組期間
平成 28 年度～（継続中）

３　取組概要
市民みんなで創る音楽祭事業は、生駒市主催の事業として、広く生駒市民を対象に音楽を身近に楽しむ機会を提供し、地域の文化芸術の振興や活性化、青少年の豊かな情操を育むとともに、地域の音楽活動のさらなる広がり、発展に寄与するための事業である。市民団体等から効果的・効率的な音楽祭事業の提案を受け、その事業を企画運営する非営利団体を選定する。

４　背景・目的
本市には、全日本吹奏楽コンクールに金賞 8 回、銀賞 3 回を受賞した実績のある市立生駒中学校をはじめ、他の小中学校においても複数校が全国大会に出場するなど、吹奏楽のレベルが非常に高く、音楽に関心のある市民が多い。そんな中、平成 23 年度に平城京遷都 1300 年記念行事イベントの「いこま国際音楽祭」以降、プロによる国際音楽祭を毎年開催していたが、平成 28 年度からは市民主体である現在の音楽祭に転換。 様々な人材が事業を提案することを通して「人のつながり」を新たな創造に活かすことにより、本市の文化芸術を支える人材の拡充をはかり、音楽文化を今まで以上に活性化させることを目的としている。

５　取組の具体的内容

平成 30 年度スケジュール（予定）

説明会	平成３０年３月２７日（火）１９時～ 平成３０年３月２８日（水）１５時～ 平成３０年３月２９日（木）１０時～
公募期間	平成３０年４月２日（月）～５月１０日（木）
質問受付締切	平成３０年４月１０日（火）１５時まで
質問回答	平成３０年４月２０日（金）１５時頃
企画提案書等受付締切	平成３０年５月１０日（木）１７時まで
第１次審査（書類審査）	平成３０年５月中旬～６月上旬
第２次審査（プレゼンテーション）	平成３０年６月下旬～７月上旬
結果通知	平成３０年７月下旬
契約締結	平成３０年８月
事業開催	平成３０年１１月～平成３１年３月頃

６　特徴（独自性・新規性・工夫した点）

地域特性や市民の潜在能力を活かしているという点で独自性がある。また本市に在住、ゆかりのあるアーティストの起用や、市民との合同演奏、また市民に馴染みのある楽曲を取り入れていただくことで、「生駒らしい」音楽祭事業を推進している。

◎29 年度「市民みんなで創る音楽祭」公演一例

「次世代に届けたい物語と音楽」
1990 年代に 10 代で音楽に慣れ親しんだ世代が子育て世代となり、「三世代で楽しむコンサート実行委員会」として自分たちの子どもに伝えたい音楽を企画・運営を行う。会場は様々な年齢層の観客で溢れた。

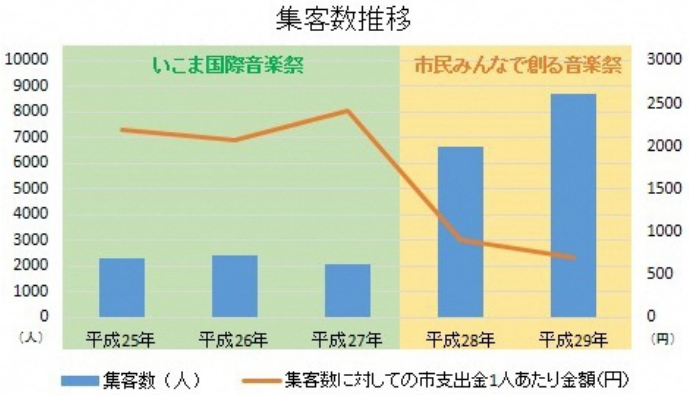
「生駒山麓太鼓鼓手会演奏会　生駒伝説」
生駒の伝統文化である生駒山麓太鼓を継承していきたいという想いで、「生駒山麓太鼓鼓手会」が企画・運営を行う。他の楽器とのコラボやお芝居を組み合わせた内容で観客を魅了し、有料公演ながら満員御礼となった。

「生駒シャンソンの祭典」
関西で活躍するプロのシャンソン歌手、市内で活躍するアマチュア歌手が「ルミエールの会」として企画・運営を行う。現役を退いたシニア世代が中心となって音楽事業に関わることで、同じシニア世代のみならず次世代の方をも魅了した。

7　取組の効果・費用

「市民みんなで創る音楽祭」に変更後、従来の国際音楽祭と比べて観客数が約 4 倍に。財政面においても費用対効果が大幅に高くなったといえる。また、多種多様な市民団体が公演を開催することで、音楽ジャンル、演奏者、観客層の幅が広がり、音楽文化がより浸透している。

年度	集客数	予算	集客数に対しての予算1人あたり金額
平成25年	2278人	500万円	2195円
平成26年	2417人	500万円	2069円
平成27年	2069人	500万円	2417円
平成28年	6649人	600万円	902円
平成29年	8710人	600万円	689円



8　取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

多種多様な企画を審査する点において、以下のような課題や問題点がある。

- 限られたスケジュールの中で、国内外を問わず様々なジャンルの企画提案に対する審査を行わなければいけない。
- 市が主催の公共の文化事業として、採択基準の在り方を明確にしなければならない。（プロとセミプロの位置づけや、発表会要素の強いものではなく、観客と一体となるような事業の推進等）
- 応募団体が増加傾向にあり、事務局の負担が増えている。

9　今後の予定・構想

- 将来的には市民の有志による実行委員会が、事務局の機能を担い、運営を行うことで、市民力を活かして「音楽のまち生駒」を創り上げるという市民協創のかたちをより具現化していきたいと考えている。
- 採択においては一定の水準を保ち、出演できることが団体の誇りとなるようなイベントに成長させていくことを目標としている。
- 行政の予算だけに頼ることなく、受益者負担の観点を盛り込み、一定の入場料収入を得ることによって継続可能な事業としての在り方を模索していく必要がある。
- 音楽ジャンルや世代の幅をより拡げ、出演者のみならず観客もたくさんの方を巻き込んでいきたいと考えている。

１０　他団体へのアドバイス

地域における潜在的な市民の力に着眼することで、独自性のある事業が展開できる。本市においてはそのひとつが『音楽』であり、「市民みんなで創る音楽祭」が本市らしい取り組みとして実を結んだ。また単に行政から提供される事業としてではなく市民提案型とすることで、市民自らがまちの活性のために何かをしようというキッカケづくりになり、同時に人材を発掘することやまちづくりに参画する人が増えることも期待できる。

１１　取組について記載したホームページ

http://www.city.ikoma.lg.jp/0000012720.html